

2020年(R2年)

10月

No. 344

ひととは



社会福祉法人 ひととは福社会
 〒739-1203
 広島県安芸高田市向原町長田1857番地
 TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムパツ) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

- 向原では稲刈りもおおむね終わり、晩秋の風景が少しずつ見えてきています。
 - 皆さん、いかがお過ごしでしょうか。わたしは病と共存しながらマイペースの療養を続けています。もちろん私の人生の同行者をはじめ、ひととはの職員、自治会きららの人たちの協力があってこそということはいまでもありません。
 - その私にとって、改めて見えてくる風景があります。その風景とは社会と施設との間にある差別偏見という見えにくい壁です。
 - 先日送られてくる情報を読んでいると、神戸市にある精神科病院で虐待が行われたという記事です。見出しは「精神科病院『B棟4階』のおぞましい虐待」という見出しです。記事の中には「虐待をした元看護師2人は、どちらもおとなしそうな、どこにでもいる普通の青年だった」とあります。
 - 今まで起きた虐待事件をみても、決して残虐非道で地域社会からも弾き飛ばされるような人が事件を起こしているのではなく、ごく普通の人々が事件を起こしています。なぜ施設と社会では本人の性格が一変するのでしょうか。施設とは私たちの社会でどのような役割を担っているのでしょうか。
 - 施設で生活し活動している私たちの仲間が「どれほど一生懸命に活動しているのかを社会に対して発信し、差別や偏見をなくすることこそ私たちの責任だ」と思います。
 - 私の心のうちの差別や偏見を見つめ直さなければなりません。
- (理事長 寺尾 文尚)

ささき亭は感染症拡大防止のための店内飲食を全て中止し、4月中旬よりお弁当のみの販売となりました。それに伴い、今まで行っていなかった地域への配達を開始。ガラリと変わった営業形態にあらはすぐに順応、しかしスタッフの方はあたらしくしていました。

配達をする中で顔馴染みの方が増え「今日は兄ちゃん休みか?」「暑いのお疲れ様」と楽しくおしゃべり。5ヶ月を過ぎた現在は「今日は〇〇さんおるかね?」「ひととは、この子ども達に会えるかな?」ときららの話題も増えました。

しばらく続きそうなコロナ禍。しかし今年度いっぱいはお弁当屋さんですが、お弁当と共に私達の笑顔もお届けできたらと思います。

(ささき亭 増野 奈緒)

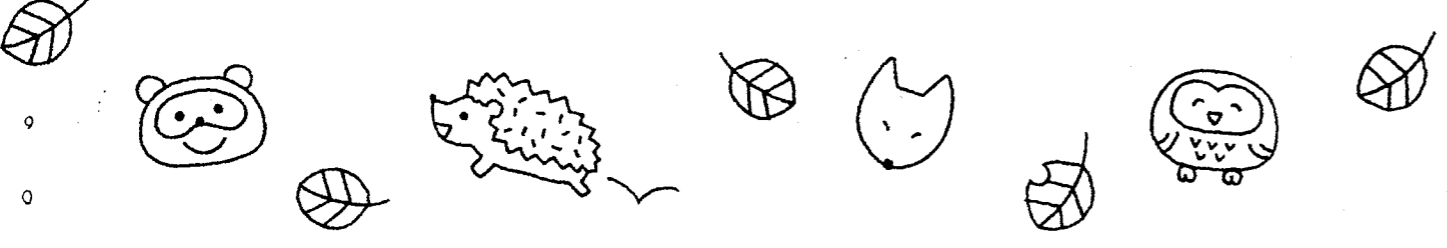


今年のひととはまつりについて、自治会きららで話し合い、現状、今まで通りの開催は難しいと判断しました。そこで、今年はYouTubeを利用したオンラインでのまつりを開催、題して「ひととはの絆まつり～虹のかけ橋でつながろう～」。

コロナ禍で大変な中、人と人とのつながりの大切さを改めて感じます。このまつりを通して、見る人が楽しくなれるよう、また、今のひととはの雰囲気やきららの笑顔が皆さんに届くよう、これからみんなでアイデアを出し合いながら作っていきこうと思っています。皆さんとひととはが繋がりますように!

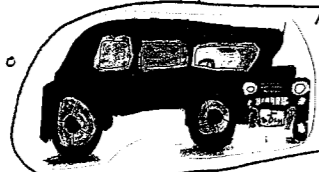
(自治会担当 松本 拓世)

配信期間については次月の通信でお知らせします。



「チャレンジした絵」

7月からアグリサポ+で働き始めた山野さん。アート活動に誘って頂きました。「今まであまり絵を描いたことないよ」と少し不安そうな気持ちと、でも新しいことにチャレンジしてみようという気持ちが入り混じったような表情で参加されました。1回目は赤いダルマを描き「楽しいね〜こっちは楽しいわ」「次は大好きな車を描いてみたい」ということで2回目は旧車ルノーの写真を見ながら描きましょ。とても味のある絵で山野さんとても嬉しそう。



カラーの絵や様子はInstagram「3bannoriba」でも紹介しています。
(就労センターあぷ。 二宮 由香理)

「コンパス」

「これなあに〜」鉛筆入れからコンパスを見つけてきたのは小学2年生の女の子。「円を描くものなんよ」と伝えると「へえ〜。どうやって使うん？」と聞いてくる。「上の方を持ってくる、とやさしく回すんよ。」と言いつつ一緒にやってみるが、なかなか思うようにいかず…。見てみると、両手を使ってコンパスを持ち、軸も芯も同じように動かしていた。2日目、何も言わずコンパスを出してきて円を描き始める。何個か描いているうちに一つ上手な円となり、時計にしていた。3日目には慣れたもので、友だちにも教えている。積み重ねていくことで色々と出来るようになり、自信にもつながらっていくんだなとつくづく感じる。
(ひとはほろこ 鈴川 容子)

「医務室の朝」

朝ドアか… まず三輪さんが医務室をのぞいて出ていく。次に林出さん。スタッフの勤務を聞きにやってくる。「わからない」と言うスタッフの顔写真を見せてくれる。三上さん、週末自宅へ帰り月曜日にホームへ帰所する。帰所すると自宅に居るご両親のことが心配になる様子。その他きらら達が顔をのぞかせてくれる。同時に表情もチェック。ちよっと話をすることで気分が上がることでありますね！
(看護部 中村 利江)

「色違い」

私の名字は「青山」です。「太陽というライトに照らされ、青い空というキャンバスに映える高々とそびえる山」で青山です。今日までの35年、この苗字で誇り高く過ごしてきましたが、ひとはでの勤務が開始した当初から、中村国慶さんには「赤山さん」と呼ばれています。「夕日に照らされ暮、赤に映え、明日への活力を滞々と溜め込む山」の赤山です。どちらか山に変わりないのですが、色が違えば意味も景色も変わります。見知らぬ土地で人生のチャレンジをしている私にとってはとても前向きなあだ名かなと勝手に解釈しています。人生まだまだ。赤山は頑張ります。
(ひとは農園 青山 直樹)



くりすちゃん、ひとはを人間のいきをるところと評価してくれています。
(幸尾 文尚 談)

まぐらのてらおさん
てらおさんがたいへん
がんばらなつた べつくり
どうしたら てらおさんは
べつくりきさをせん人かと
おもった
ぼくらのおとうさんだけん
ぼくらさまもってくれる人
いけん
ばんきないきさしてん
こまる
おちがいます
しりすあき

3番のりば展★展示・販売★
場所: 茶房いなだ (吉田町吉田1012-2) TEL: 0826-42-0220
期間: 10月3日(土)~(10月29日(木)) 6:00~18:00
定休日: 金曜日
お問い合わせ: 0826-45-7171 (就労センターあぷ。)

編集後記
甥、子が誕生した。産科にばかりの赤ちゃん(エコーはいい)いのかと驚いた。この私の障子のあまね(「抱、こしてら、こ」と「今日(病院)行、こ」と)と、気にかけている。少し離れたP9から控えて、めいからガラを振、こは、おもしろい。
(竹内 宏美)